

▲丸の内支部生る

斯くして戦闘方針定まるとともに、同夜罷工團は松本亭に於て友愛會入會式を行ひたり、即ち新團の會員は友愛會に屬する東京洋服技工組合に入り、新に丸の内支部を形成せるなり、從來洋服技工組合は芝區明舟町一五美登賀方に本部を置き、鐵道省被服工場に約百名の組合員を有したるのみなるが此入會に依り組合員の倍加を見たり、棚橋氏、鈴木會長の講演あり盛況を呈せり、丸の内支部役員左の如し。

委員長 藤本作一 △通信記録委員 咲本庄太郎、山田耕三△會計係兼委員 田邊榮次郎、水品仙次△内部委員 溝畑朝二郎、井形由太郎、佐藤松五郎△外部委員 福井宗一、阪口龍一郎、福良祐之、小倉了△通信記録補員 岩下桂介、牛島清忠△會計監査員 齋藤幸吉、大西辰之進△委員相談役 中村慶介、江口松五郎、長沼良雄、岡田經雄、山田孝太郎、五十嵐定治、春日善次郎、丸岡富扇八三郎、木村群三、山屋光、本村和三郎、小濱小市、齋藤運三、横田芳廣、兼子芳賢、井上健三中澤安三、井上多田男、倉島吉次郎

支部發會式後、東京聯合會幹部會を開き丸の内支部に對する應援方法を協議したる結果、愈之を徹底的に應援するに決し、廿九日以後の示威運動に猛烈なる聲援をなし、尙罷工永引くことあらんか、

組合同盟會全部に應援を求むることあるべしと議定したる外、當夜以後妨眠電報及電話の策を講ずること決定したり、妨眠電報とは各支部が初夜より深夜に亘り約三十分の間隔を取り、三越重役宛に「コノウラミスルナカレ」と云ふ風なる電報を發することにて、重役一家は間斷なき電報配達夫の聲に眠りを破られざるべからず、妨眠電話亦之と軌を一にし、夜中電話を矢繼早に掛くるの戦法なり、但し後者は受話機を外つさるるの虞あるも、前者に其虞れなしと。

第二の重役脅威策は重役の門前佇立なり、深更より重役の門前に三三五伍何事をか爲さんとするか如くして佇立し、更に翌朝開門時に亦之を行ふ家人をして先づ懈伏せしめんとするの策にして曩に園地鐵工所の罷工に當りて之を行へることありき、二十八日罷工團は第三の宣傳ビラを全市に配付したり。

告!!!

(原文のまま)

労働者を苦しめつゝある横暴貪婪なる三越呉服店の重役住所氏名左の如し

澁谷青山北町七ノ二(電芝三八〇七)

秘書課長 北 田 藏 司

神田區淡路町二ノ四一號(神田一九二〇)